

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

うえつき

日付 平成 20年 3月10日
特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

リビングで裁縫の得意なAさんが縫い物をしている。Bさんは皆のぬり絵カレンダーに日付けの数字を書き込んでいる。その横でCさんはカレンダーの絵に色を塗っている。Dさんは新聞紙を折ってゴミ入れを作っている。Bさんが96才最年長のFさんを指差しながら「あの人はわしの近所の人じゃ。男・女は違うけど、わしと同じ名前、二人ともSじゃ」と教えてくれた。AさんとCさんの夫は兄弟で二人は嫁同志だそうだ。近隣出身の利用者達は昔を知る者同志、共に暮らす安心感が漂っている。Dさんが歩行器で移動すると通り易い様にそっと椅子をずらせてくれる。互いを思いやる優しさが自然で心地良い。Bさんがコマ付きのイスに座ったまま足でイスを走らせ部屋に帰る。イスの方が小回りが効いて動き易いのだそうだ。Bさんは人の手を借りず出来る事は自分でしたい。ホームはその人の出来る事を活かし、支援は最低限に留めている。お客様で昼食をご馳走になる積もりでいたら「巻き寿司は自分の分を自分で巻くんやぞ」と利用者が言う。具は高野・卵・ホウレン草・カニ棒・かんぴょう・椎茸と盛り沢山だ。「上手く具が真ん中にくりゃあええ、あんた女の人だから出来よう」と言われ慌てる。勧められるままに具を全部入れるとご飯も多くなってしまふ。「あんたそりゃ太巻きじゃ」皆遠慮なく思った事をポンポン言う。「わしは好きなもんだけ入れた」Bさんは卵とカニ棒だけ入れている。らっきょを入れたらもっと美味しいそうだ。食事が終わるとAさんはエプロンかけて、いそいそ洗い物を始める。これはAさんの仕事だ。職員が洗い上がった洗濯物を持ってベランダに出るのを見てEさんが後を追う。職員と一緒に洗濯物を干すのはEさんの仕事だ。「手伝おうか?」洗い物を済ませたAさんもやって来た。外は寒いが「皆ですと早いなあ。いつも手伝ってくれて有難う」笑顔のやり取りが温かい。Dさんがゴミ入れ作りを再開した。折り方はここへ来て覚えたそうだ。「こんなの覚えるのに3ヶ月もかかったんで。たったこれだけの事になあ」と笑う。「いつも作ってくれるから助かるわ」と職員に言われて「こんな婆さんの作るもんじゃけど、風呂場や便所に行ったら使うてくれとるのがあって嬉しい! まあ出来る事ありゃええ」役に立てる喜びに溢れている。「ええとこよ。皆ええ人! お世辞じゃないよ。思ってた事言える。私ら勝手ばあ言いよるけど」笑いながら話す利用者達の表情は底抜けに明るかった。

特に改善の余地があると思われる点

介護計画と介護・生活記録は、利用者のホームでの生活のシナリオであり、記録はその生活の実態を表現していき、職員のケアやサービスの仕事に従事した証しを示すものである。今も計画や記録はその用件を満たしているものであるが、利用者がこのホームで生活する為のケアサービスに密着した具体的な計画及び記述の様式及び内容であって貰いたいとより一層の改善を期待しておきたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：理念は、利用者と職員が日頃から実践している事を物語っており、このホームの特長である。職員も理解し、利用者が安心して暮らしたいと思ってケアしているので、このままで良いと思う。</p> <p>全体的に見て…：「第2の我が家として、自分らしい生活を送る事を支援する」がホームの理念だ。「利用者には遠慮なく、わがままに、自由に過ごして欲しい。職員には気持ち良く仕事をして欲しい。互いに相手を思いやり、感性を磨こうと伝えている。先ず職員が仲良く楽しく働いたら、そのホームは利用者にとっても居心地の良い場所になると思う」と管理者は言う。20代から60代までの幅広い層の職員達は、楽しく働くをモットーに、利用者の子や孫となり、利用者達との第2の我が家を目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：リビングルームから外を眺めれば、午前中雲に隠れている那岐山が、午後にはくっきりと全様を現した。雄大な山と田園地帯の風景はこのホームの主である。生活空間に改善の余地は無い。</p> <p>全体的に見て…：居室を出ると何となくリビングに来てしまう造りになっている。リビングの食卓横には、テレビを囲んで長ソファが並んでいる。広くゆったりしたスペースで、風船バレー等レクリエーションも全員で楽しめる。大きな掃き出しのガラス戸を開けると、屋根つきウッドデッキのベランダがあり、眼下に広がる田畑と雄大な那岐山の山並を一望出来る。四季折々の風景を楽しみながら、洗濯物を干したり、ホームの畑で土いじりをしたりと外の空気を満喫する。庭の所々に一休み出来るベンチがあるのも嬉しい。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：ケアマネージメントについては、職員のすべき事を限りなく改良していく事はある。現状を見て、一つひとつ順序だて、波及効果の高いものから、自らの努力によって良くして行こうとする管理者・職員の意欲を感じた。</p> <p>全体的に見て…：認知症の周辺症状がきつく、他の施設で引き受けて貰えぬ人がホームに来た。「その人の言う事は、本人にとってはそれが真実なのだから受け止めてあげよう。とにかく1ヶ月頑張ろう」と管理者は職員に言った。心を受け止める努力を積み重ねる内に次第に人間性を取り戻し落ち着いていったそうだ。用事のある時だけ職員を呼び、居室に閉じ籠っていた人が、積極的に外出するようになり、表情も良くなった。車椅子だった人が、手引き歩行で移動する内に歩けるようになったとも聞いた。ホームに来てから良くなった事例はまだ多い。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>自主評価について…：医者である代表は、管理者との連携と意思疎通を取りながら、出身地のこの地域に貢献したいとの思いを益々深めている。管理者と職員の意欲を汲み取っておきたい。</p> <p>全体的に見て…：職員は百メートル先が家の人や、一番遠い人でも15分と、皆近隣の地域の住民だ。時々職員の子供も遊びに来るし、犬も来る。ホームの行事には、職員の一家総出で手助けしてくれる。管理者はホームに色んな風を入れたいと考え、機会がある度に「いつでも遊びに来て下さい」と呼び掛けている。他のグループホームや特養・老健施設の介護職員が見学に来た。「グループホームってどんな所？」と見に来る人もいる。家族は「施設に入れるのを悪い事みたいに思うとったけど、母の顔見てるとわしは間違ってた」と喜んで野菜を届けてくれる。地域の人も畑作業や草刈りに来てくれる。ホームは確実に地域に根付いている。</p>		